

### 【教員養成の目標】

ビジネスコミュニケーション、国際日本語教育、文化遺産学の3分野を擁するグローバルアジア研究科では、国際社会のニーズに対応できる、高度専門職業人の人材養成を目指してきた。高度専門職業人としての学問的基礎を習得するのみならず、実践的に活躍できる能力を備えた修了生が、学校現場において中核的・指導的役割を担い、グローバル化が最も先鋭に展開するアジアを深く理解し、その成果をアジアにおける交流や社会還元で活用できる人材を育成することによる教育的貢献を可能にする教員の養成を行うことを目標としている。

### 【当該目標を達成するための計画】

本研究科においては上記の教員養成の目標を達成するために、以下に示す取り組みを中心に、教員養成をおこなっている。

#### 分野連携型の履修

基本体系を踏まえながら、専門分野を中心におきつつ、他の分野も含めた学際的な知識体系の取得を目指して、専門講義科目と関連知識を学ぶ特論科目、幅広い知識を得る共通科目、更に実践力を研ぐ実習科目を設けている。

教職課程取得のためのカリキュラムでは、アジア全般、また国際社会に関する専門知識と分析手法を習得するために、基盤科目で「アジア関係論」「文化政策」「グローバル化と社会」「グローバル化と文明史」を設けている。専門分野では、ビジネスコミュニケーション分野の専門講義科目で「グローバルビジネス研究」「グローバル経済研究」「アカウンティング研究」「アジア地域経済研究」「グローバル経営史研究」、特論科目で「アジア地域・ビジネス特論」「アジア税務・会計制度特論」を、また文化遺産分野の専門講義科目で「文化遺産研究」「西アジア考古学研究」「メソポタミア考古学研究」、実習科目で「文化遺産学実習」、特論科目で「西アジア史特論」「メソポタミア史特論」を配している。これらのカリキュラムを分野横断的に履修することにより、教育実践上必要な知識・技術を養成する。

また、以上の学修を統合する実践として、学位論文の作成とそのための研究指導を「グローバルアジア演習」として設けている。

このように、グローバル時代のアジアを中心に習得した知識を活用し、様々な次元でのコミュニケーションの構築を可能に関する高度な専門知識と分析手法の獲得を目指すことにより、修了後、学校現場でしっかりとした基本的知識取得の上でコミュニケーション能力を発揮できる人材を養成することが可能な教育力を持ち、中核的・指導的役割を担うことのできる教員を輩出する。

誠実に地域に貢献するために学び続ける意欲を持ち、専門分野の研究を社会に還元する努力を惜しまず、信念と責任感を持って、自立した成果を得ようと努める姿勢を持つ教員育成を持続的に行うために、カリキュラムの改善・充実に努めている。